

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成25 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>(1)古墳時代をはじめ各時代に培われてきた多様な歴史・文化資源の保存と活用 古墳や町家等の歴史・文化資源について、保存・活用に取り組む。</p>
計画に記載している課題	<p>堺市には高い価値を有する古墳や町家、寺社等の歴史的建造物等が数多く残されているものの、老朽化が進み、その維持管理や補修費用が大きな負担となるなどにより、現代風の建物への建替えや取り壊しなどが進みつつある。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○百舌鳥古墳群整備事業 堺市百舌鳥古墳群保存整備委員会を5回に渡り開催し、「国指定史跡百舌鳥古墳群保存管理計画」を策定した。また、収塚古墳及び寺山南山古墳の形状確認のための発掘調査を実施し、「史跡百舌鳥古墳群整備基本計画」の策定に向けた検討を行った。なお、発掘調査では、市民向けの現地説明会も開催した。(参加人数 平成27年5月:550人 平成28年9月:450人 平成28年12月:500人)</p> <p>○重要文化財高林家住宅保存修理事業 御廟山古墳に隣接する高林家住宅は、江戸時代に建築された民家で重要文化財指定されている。高林家住宅の保存修理に向け、所有者との協議を進めている。</p> <p>○歴史的建造物保存修理事業 山口家住宅や清学院とともに、堺環濠都市を代表する歴史的建造物である「鉄砲鍛冶屋敷」の保存に向け、所有者と整備方針等について協議を進めてきた。このほか、所蔵する歴史資料約1万点のうち、鉄砲関係の歴史資料の調査等も行った。</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>○計画的かつ着実に百舌鳥古墳群を残していくために、「国指定史跡百舌鳥古墳群保存管理計画」を策定し、発掘調査を行いながら適切に保存・管理を進めている。また、発掘調査に合わせて市民向けの現地説明会を開催したことにより、保存・管理に必要となる市民理解が深まった。</p> <p>○重要文化財高林家住宅や鉄砲鍛冶屋敷の保存修理の方法について所有者と協議を行い、歴史的建造物の保存・活用に向けた取組みを着実に進めている。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p>■想定通り効果が発現している □今後発現が予想される □要対策検討 □現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p>■計画の見直しが不要 □計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)</p>

評価対象年度	平成25 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>(2)「もののはじまり何でも堺」に象徴される伝統の継承と振興 伝統産業の振興・継承にあたっては、消費者ニーズや市場環境の変化に対応した商品開発や販路開拓、情報発信の強化を図る。 また地域の祭礼行事の保全・継承にあたっては、不足する祭礼行事の新たな担い手としての新規住民の参加、技術伝承のための記録作業などを進める。</p>
計画に記載している課題	<p>生活スタイルや産業構造の変化を背景に地域に根付いていた伝統産業への関心が薄れつつあり、その継承・継続にも影響を及ぼしている。 また、茶の湯など、堺市に古くから伝わる伝統文化も学ぶ機会が限られるなど、近年の社会・経済情勢を受け、課題が生じている。 さらに、伝統行事や祭礼の歴史的意義・大切さに対する認識の希薄化により、次世代の担い手が不足してきている。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○市民と協働した古墳の保存管理に向けた取り組み 百舌鳥古墳群に関するシンポジウムや講演会を開催したほか、「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を応援する堺市民の会」(入会者数(平成29年3月末現在):15,450件(個人15,280、団体170))を設立した。また、市民ボランティアが中心となって実施する仁徳天皇陵古墳周辺の清掃活動や民間企業と連携したウォーキングイベントを開催した。</p> <p>○堺市地域文化遺産活用活性化事業 手織り緞通や線香等、堺の伝統的な工芸技術をはじめとした文化遺産を市民に普及し、理解を深めるため、町家歴史館において、ワークショップを実施した。また、地域の文化遺産継承に向け、上神谷のおどり保存伝承事業等を実施したほか、神輿渡御祭の歴史的経緯や渡御際の様子について記録・調査を行った。</p> <p>○ボランティアガイドの育成支援 ボランティアガイド養成講座や他都市のボランティアガイドとの交流研修等を通じてガイドの知識や技能の向上等、育成のための支援を実施した。</p> <p>○堺市地場産業振興事業補助事業 刃物や線香など伝統産業を含む地場産業の振興を図るにあたり、中小企業者により組織された団体が行う、①経営の近代化・合理化、販路開拓、情報収集に関する事業、②後継者の育成や技術・技法の記録等に関する事業について、経費の一部補助を実施した。</p> <p>○堺市伝統産業後継者育成事業補助事業 刃物や線香などの伝統技能の継承を図るにあたり、後継者を雇用した事業所に人件費の一部補助を実施した。 (後継者育成に向けた支援件数:74件(92人) ※平成25年度～28年度累計)</p> <p>○堺市ものづくりマイスター制度 伝統産業に関して卓越した技能を持つ者を市がマイスターとして認定し、実演・体験講座などの講師として派遣した。</p>

<p>方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)</p>	<p>○百舌鳥古墳群に関するシンポジウムなどのイベントの開催等を通じて、多くの方々に古墳の魅力や価値、重要性に関する意識啓発を実施したほか、「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を応援する堺市民の会」では着実に会員数が増加するなど、市民理解も深まってきている。</p> <p>○伝統産業については販路開拓や後継者育成等に向けて様々な形で支援を行い、刃物や線香を中心に報道で取り上げられている。このような取り組みにより、歴史と伝統を反映した人々の活動支援の取り組みの効果も表れている。</p>
<p>達成状況の評価、要改善事項</p>	<p>■想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
<p>計画見直しの必要性</p>	<p>■計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)</p>

<p>評価対象年度</p>	<p>平成25年度～ 28 隻</p>
<p>計画に記載している方針</p>	<p>(3)古墳や歴史的まちなみを活かした魅力ある景観の創出 堺に暮らす人々及び堺を訪れる人々が歴史的風致を感じられるような魅力ある景観形成を進める。特に、古墳周辺においては環境整備とともに、これと調和し、また古墳への眺望に配慮した周辺市街地の景観の保全・創出を図る。 また、町家が多く残る地域においては、歴史的なまちなみを形成するとともに、阪堺線が通る紀州街道沿道について停留場の美装化、紀州街道の沿道の景観づくりにより市街地環境の整備を図る。</p>
<p>計画に記載している課題</p>	<p>古墳及び周囲には古墳と一体となった緑地があるものの、周辺の建物等により古墳への眺望が阻害され、一望できない現状となっており、周遊に対する取組みが不足している。 また、歴史的建造物等の周辺市街地では、街道沿道などでの空地等の増加、建て替わりなどにより歴史的な景観は失われつつあるとともに、中心を走る阪堺線停留場の老朽化の進行や沿道の植栽帯が充実していない面も、街道の風情が消失しつつある要因の一つとなっている。</p>
<p>対応する進捗評価項目とその推移</p>	<p>○百舌鳥古墳群及び周辺区域において建築物の高さや形態意匠、屋外広告物の大きさや高さ等の制限内容を見直しを行い、古墳のあるまちとして相応しい景観づくりに向けた取組みを行った。 (屋外広告物の新たな制限に関する周知啓発件数:約2,700件、景観地区における建築物の認定申請件数:71件(平成28年1月～平成29年3月末現在)) ○視点場の整備に関する調査検討 百舌鳥古墳群のうち、大型古墳6基を結ぶ周遊ルート上に視点場として相応しい箇所の検討を実施し、履中天皇陵古墳北側に視点場整備箇所を決定した。当該地の用地を取得し、平成27年度に設計完了、平成28年度に工事着手した。 ○百舌鳥古墳群水質改善事業 各古墳での水質改善に向けた調査検討を行ったほか、一定の水質基準を定めて、百舌鳥古墳群(仁徳天皇陵古墳)にてシミュレーションを実施した。この結果から水質改善の方向性を整理した。 ○まちなみ再生事業 堺環濠都市北部地区において、地域住民が中心となった「堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会」が設立、当地区のまちなみの特徴を整理したガイドラインを作成するとともに修景補助制度を創設した。当協議会との連携のもと、地域住民に対して歴史的なまちなみの再生や補助制度について勉強会開催・協議会ニュース発行等を通じて周知するとともに、町家の修景工事に対する補助を行った。(修景工事件数 平成27年度:1件、平成28年度:4件) ○ザビエル公園再整備事業 大型舟形遊具の整備や中世における海岸線位置を園路で再現するなど、歴史・文化を感じながら市民や来訪者が憩え、周辺のまちなみと調和した地域の拠点公園となるよう再整備を行った。 ○宿院町公園再整備事業 園内の樹木等を整理するなど、良好な景観形成を図るとともに、市民や来訪者が憩える公園となるよう再整備を行った。 ○阪堺線停留場美装化事業 宿院停留場(上り・下り停留場)について、上屋、ホームの改修等を実施した。 ○紀州街道沿道の景観づくり(阪堺線沿線の植栽帯の改善) 紀州街道を走る阪堺線沿いの既存の植栽帯について、歴史・文化を感じられるような景観の創出に向けて、改善工事を実施した。</p>

<p>方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)</p>	<p>○百舌鳥古墳群及び周辺区域については、古墳への眺望に配慮した景観形成に向けた新たな制限の周知はもとより、景観地区での建築物の認定申請に係る協議を重ねてきたことにより、事業者・設計者の景観形成に係る意識が高まってきている。このほか、視点場の整備に関する調査検討に加え、整備も実施し、来訪者が古墳あるいは古墳の持つスケールの大きさや存在感を体感できる空間を創出するなど、周遊に関する取組みを行った。</p> <p>○堺環濠都市区域については、紀州街道を通る阪堺線の停留場や植栽帯、街道に隣接する公園を整備するとともに、特に堺環濠都市北部地区では、堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会が中心となった歴史的な町なみ再生に関する意識啓発等の取組みや町家の修景が進んでいる。これらの取組みにより、神輿渡御祭の舞台である紀州街道を中心に景観形成が図られつつある。</p>
<p>達成状況の評価、要改善事項</p>	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している <input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
<p>計画見直しの必要性</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)</p>

評価対象年度	平成25 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>(4)歴史の重層性に育まれた堺の都市魅力の発信と共有 市民への情報発信、あるいは“堺で育まれてきた歴史・文化資源”に触れる機会の創出などに取り組み、市民の意識醸成を促進する。 堺市が受け継いできた伝統産業や茶の湯体験等の地域固有の歴史・文化資源について、数多くの来訪者が触れ、感じ、共感できるよう、回遊性の向上に向けた基盤整備等の環境整備を進める。</p>
計画に記載している課題	<p>茶の湯をはじめとする伝統文化など、堺固有の歴史的資源についてその素晴らしさを市内外に十分発信できていないことや、これらを巡る周遊ルートや案内表示などのインフラ整備が不十分で、「おもてなしの準備」が不足している。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○百舌鳥古墳群に関する情報発信 百舌鳥古墳群の価値や魅力について、堺市HPやパンフレット・ポスターのほか、プロモーションムービーの上映、シンポジウムや講演会等の開催を通じて情報発信を行った。</p> <p>○百舌鳥古墳群周辺案内板の整備 来訪者の利用が見込まれる鉄道駅や周遊ルートで市内外からの来訪者に分かりやすい周遊案内板の整備に向け、整備方針の検討を行った。</p> <p>○百舌鳥古墳群ガイダンス施設の整備 (仮称)百舌鳥古墳群ガイダンス施設建設工事基本設計を完了し、実施設計等に着手した。また、堺市博物館内の百舌鳥古墳群ガイダンスコーナーで高精細な映像による来訪者向けガイダンスを開始した。</p> <p>○環濠都市区域内における案内板の改善 既存の施設案内板は、見やすさや分かりやすさなどに配慮した案内板とするため、表示内容の見直しや多言語化など改修・修繕を実施した。</p> <p>○自転車通行環境の整備 市内外からの来訪者について歩行者・自転車利用者の安全を確保するため、自転車利用促進や回遊性向上に資する自転車道や自転車レーンを整備した。</p> <p>○文化観光拠点整備事業、コミュニティサイクルポート整備事業 千利休や与謝野晶子をテーマとした展示室、観光案内施設、茶の湯体験施設などを備えた文化観光施設である「さかい利晶の杜」を整備し、多くの来館者を迎える中、大人だけではなく若年層の来訪者も増加している。 【学校団体数 H27年度:63件 3,586人 H28年度:111件 5,548人 【立礼呈茶中学生以下体験数】H27年度:1,854人 H28年度:2,595人 また当施設内にコミュニティサイクルポートの整備が行われ供用が開始された。</p> <p>○史跡・重要文化財等公開事業 毎年春季、秋季に寺社や歴史的建造物等、非公開の史跡や重要文化財の公開を実施し、広く市民に対して文化財の普及啓発を行った。</p> <p>○学校教育の場での茶の湯体験 堺の子どもたちが伝統文化を知り茶道において大切にされる「もてなしの心」等を学ぶ場として、小中学校において「茶の湯」体験を実施した。</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>○様々な媒体や機会を通じて情報発信を行い、堺市民だけでなく多くの方々に堺固有の歴史文化である百舌鳥古墳群を知ってもらうことができた。特に暫定施設として整備した百舌鳥古墳群シアターでは、高精細のCG(コンピュータ・グラフィックス)を使ったVR(バーチャルリアリティ)により、迫力ある映像で世界最大級の墳墓・仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群の雄大さを体感できるようになり、その魅力や価値をも体感できると評価を得ている。</p> <p>○環濠都市区域においては、文化観光拠点「さかい利晶の杜」が整備され、市内外を問わず多くの人々が堺の歴史文化である茶の湯を学び、体験できるようになった。市内の小中学校からの利用も増え、次代を担う子どもたちにとっても理解や関心を深める、ひとつのきっかけとなっている。</p> <p>○コミュニティサイクルポートの整備や自転車通行環境整備を進めたことにより、市内外からの来訪者が気軽に回遊できるようになっているほか、春・秋の文化財特別公開を継続的に実施することにより、堺の歴史文化に関心を持つ取り組みを進めている。</p>

<p>達成状況の評価、要改善事項</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない (要改善事項) </p>
<p>計画見直しの必要性</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) </p>

評価対象年度 平成25年度～ 28年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み①:まちなみ再生事業

(取り組み概要)

景観計画で重点的に景観形成を図る地域として位置付けている堺環濠都市地域のうち、歴史的建造物が多く残る堺環濠都市北部地区において、堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会と連携・協働のもと、歴史的なまちなみの再生に向けて以下の取組みを実施した。

- まちなみの再生に向けた住民の意識醸成
- まちなみ修景補助制度の活用による町家の修景促進

(取り組み経過)

	歴史的なまちなみ再生に向けたこれまでの取組み(公民協働の取組み)	
	市主体	まちなみ再生協議会主体
平成25年度	・第2～4回歴史的なまちなみ勉強会開催 (第1回は平成24年度に開催)	・協議会に向けた準備会活動開始
平成26年度	・第5回歴史的なまちなみ勉強会開催	・堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会設立 (第1回総会) ・協議会ニュースvol.1～4発行 ・まちなみガイドライン作成分科会開催(3回) ・ワークショップ開催(3回) ・町家・まちなみ写真展実施 ・町なみ意向調査(アンケート)実施 ・第2回総会開催 ・まちなみガイドライン作成
平成27年度	・修景補助制度創設・活用開始 ・費用対効果等に関するアンケート実施	・第3回総会開催 ・協議会ニュースvol.5～8発行 ・まち歩きマップ作成ワークショップ開催(3回) ・町家・まちなみ写真展実施 ・第4回総会開催 ・まち歩きマップ発行
平成28年度	・修景補助第2～5号物件修景工事完了 ・ピュースポット発見まち歩き開催 ・myピュースポット写真展in堺環濠都市開催	・広報スペースとして「堺町家案内所」を開設 ・第5回総会開催 ・協議会ニュースvol.9～12発行 ・町なみ再生連続講座開催(3回) ・町家・町なみを知る展示開催 ・第1～3回「昔・町なみ 歩こう」イベント開催(3回) ・研修見学会開催(小浜市)

■ 初動(町なみ再生協議会の設立:平成25年度～平成26年度)

- 歴史的なまちなみの再生について地域住民とともに考えるため、平成25年3月より平成26年5月までに「歴史的なまちなみ勉強会」を継続的に開催した(計5回)。
- 地域住民が中心となった「堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会」が設立された(平成26年5月)。



歴史的なまちなみ勉強会の様子

■ 計画検討(ルールづくり)

- 町家修景のルールづくり(ガイドライン)に向け、分科会・ワークショップを実施した(計6回)。
- 協議会ニュースの発行(vol.1～4)やまちなみ写真展の実施などを通じて、住民の意識啓発を実施した。
- 『まちなみガイドライン』を作成した。



堺環濠都市北部地区
まちなみガイドライン



分科会の様子

■ 事業推進(補助制度の創設・活用)

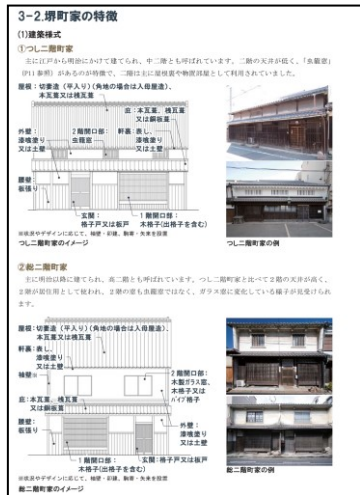
- 修景補助制度の創設・活用。
- 協議会ニュースの発行(vol.5～12)やワークショップ、各種イベントの開催などを通じて、継続的に住民の意識啓発を実施した。



ワークショップの様子

(取組み内容)

●まちなみの再生に向けた住民の意識醸成



堺町家や堺環濠都市北部地区のまちなみの特徴を整理・発信(まちなみガイドライン)



町家の魅力を紹介する
ほか、勉強会・ワーク
ショップ、各種イベントの
開催、修景補助制度の
案内などを定期的に発信
(協議会ニュース)



地域の魅力を紹介
(昔・町なみ歩こうマップ)



地域の魅力発見(まち歩きイベント)



魅力紹介(写真展)



総会の実施



講演会

●まちなみ修景補助制度の活用による町家の修景促進
 助成件数:(平成27年度)1件、(平成28年度)4件 計5件
 <事例>



- ・看板除却
- ・屋根・庇補修
- ・虫小窓復元
- ・漆喰塗り
- など



- ・焼杉板塗り替え
- ・漆喰風塗装
- ・室外機目隠し格子設置
- ・玄関引戸取替え
- など



- ・焼杉板張り
- ・紅殻塗装
- ・格子戸・面格子設置
- など

(自己評価)

平成25年度より勉強会やワークショップ等を重ね、地域住民による『堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会』が設立。以降、協議会と連携・協力しながら、町家やまちなみの特徴を整理し、今後のまちなみ再生に向けたルールとなる『まちなみガイドライン』の作成、さらには、『協議会ニュース』などを通じて、着実に地域住民への理解が深まり、多くの方々に周知を図ることができた。このことから、まちなみ再生の取組みに関心を持ち、『まち歩き』や『講演会』などに継続的に参加する住民も増えつつある。

また、『まちなみ修景補助制度』の創設・活用により、看板建築が本来の町家の姿を取り戻すなど、目に見える形で町家が再生したことにより、地域住民の意識が醸成され、問い合わせも増えている。

これらの取組みにより、町家などの歴史的建造物の保全が図られるとともに、神輿渡御祭の折に大行列が通る紀州街道の沿道などを中心とした景観形成に向け、着実に事業を推進している。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):大阪大学大学院 助教 松本邦彦

・外部評価実施日:平成29年3月28日

・有識者コメント

毎年度修景事業が実施され、総実施件数が着実に増加しており、単体の建造物保存にとどまらず、重点区域の歴史的環境の面的保全にも寄与するものとなっていることが評価できる。

さらに実施にあたっては地域にお住まいの方や所有者の方との丁寧な協議、勉強会などを実施していることも評価できる。今後は修景および面的な景観形成の実績、また歴史的風致の観点からは、これらの歴史的建造物と人々との活動の関係を地域内外への発信することも期待したい。

(今後の対応方針)

今後も町なみ再生協議会と連携・協力し、面的な景観形成も意識しながら、地域の方々への啓発を継続的に実施するとともに、町家修景の促進を図る。さらに、これらの取組みについて、地域内外の理解が深まるよう、情報発信に努める。

評価対象年度 平成25 年度～ 28 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み②:文化観光拠点整備事業

【文化観光拠点整備事業】

(取り組み概要)

旧市街地の中心に位置する旧市立堺病院跡地において、堺の特色ある文化を振興するため、千利休などをテーマとする文化施設、及び堺観光の玄関口としての観光案内施設等を整備した。また、千利休展示室の整備に併せて、千利休が大成した茶の湯を実際に体験できる茶席空間を整備し、茶の湯に気軽に、また、本格的に触れることができる“おもてなし”の場を創出した。



さかい利晶の杜(鳥瞰)



さかい利晶の杜(外観)

●茶の湯に関する展示等整備内容

- ・「利休と堺」・「茶の湯」・「利休の生涯」の3コーナーに分けて、堺で生まれた千利休(1522年～1591年)と茶の湯を知ることができる展示室を設置。日本のベニスと称された室町から江戸時代初期にかけての堺のまちを描いた「住吉祭礼図屏風」を大型タッチパネルによりデジタル化した「デジタル住吉祭礼図屏風」では、天下一の茶人・千利休を生んだ堺のまちの国際都市としての繁栄を紹介している。
- ・利休が若き日を過ごした堺今市屋敷に武野紹鷗の茶室を写し建てたという茶室と、利休晩年期である京の聚楽屋敷の茶室を想定して「床(床の間)」を中心に再現。その設えの違いや、利休の獨創性による茶の湯の変革、利休がわび茶を大成する前後の茶の湯の変遷を知ることができる。
- ・千利休屋敷跡に面した茶の湯体験施設では、立礼茶席(南海庵)や本格的な茶室(西江軒、風露軒、得知軒、無一庵)が備わり、茶の湯の世界を気軽に楽しめるほか、立礼茶席では、表千家・裏千家・武者小路千家のお点前により、椅子席でお抹茶と堺の和菓子(生菓子)を味わえる。
- ・特に茶室では、茶道三千家の指導のもと、にじり・正座・床の観賞・お菓子やお茶のいただき方などの茶の湯の作法を体験するだけでなく、実際にお客様自身がお茶を点てることもできる体験施設となっている。
- ・このほか、“千利休作の茶室で唯一現存する国宝「待庵」の創建当初の姿を復元した「さかい待庵」”文献から得られた研究成果に基づいて、現代の職人たちが堺の地に蘇らせた「さかい待庵」の内部を、茶室内に入って空間を体感できる。



茶室(体験施設)



茶の湯体験学習



デジタル住吉祭礼図屏風



さかい待庵(体験施設)

(事業経過)

- ・整備事業実施、「さかい利晶の杜」施設愛称決定
- ・整備事業実施に合わせて、周辺道路の無電柱化工事や道路整備工事を実施。来訪者サービス施設を誘致。
- ・平成27年3月20日「さかい利晶の杜」供用開始

【さかい利晶の杜管理運営事業】

(取り組み概要)

- ・指定管理者制度により、平成27年3月20日に供用開始した文化観光拠点「さかい利晶の杜」の管理運営を実施。
- ・多くの来訪者に対して、堺が生んだ茶の湯の大成者「千利休」と、日本近代文学を切り拓いた歌人「与謝野晶子」の生涯や人物像などを通じて、堺の歴史文化の魅力を発信する。

(来館者数状況)

- ・平成27年5月 入館者数10万人達成
- ・平成27年7月 計画目標値であった年間入館者数20万人を達成
- ・平成28年1月 入館者数40万人達成
- ・平成29年3月末 入館者数822,493人(平成28年度入館者数331,938人)

(自己評価)

利晶の杜の整備により、本市の文化観光拠点として、市内外を問わず多くの人々が来訪し、堺市の歴史・文化資源のPRに寄与した。
また、茶の湯等といった地域固有の歴史・文化資源について、大人だけではなく若年層の来訪者も触れて、感じて共感してもらえる機会を創出し、広く波及することで更なる本市の歴史文化の魅力発信につながっている。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):大阪大学大学院 助教 松本邦彦

・外部評価実施日:平成29年3月28日

・有識者コメント

これまで「茶の湯にみる歴史的風致」に関連する歴史的資源や伝統的活動に関する情報を集約して展示する場所が無く、市内外に向けてその価値や魅力の発信が十分にできていなかったが、整備によりそれらの課題が解決されたと言える。

重点区域「環濠都市区域」の中心に位置する立地を踏まえると、区域内に点在する茶の湯以外の歴史的風致に関連する資産の紹介や、マップや冊子等によるアクセス方法やモデルルートの提示なども検討されたい。

(今後の対応方針)

利晶の杜の整備により、本市の文化観光拠点として、市内外を問わず多くの人々が来訪する場となっており、それらの人々へ、歴史的風致の紹介とともに、アクセス方法等を記すリーフレット等の作成を行うことで、さらなる本市の歴史文化の魅力発信に努める。

評価対象年度 平成25 年度～ 28 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み③: ザビエル公園再整備事業、阪堺線停留場美装化事業、紀州街道沿道の景観づくり(阪堺線沿道の植栽帯の改善)

(取り組み概要)

●ザビエル公園再整備事業

昭和24年に開設されたザビエル公園はフランシスコ・ザビエルとゆかりのある公園であり、紀州街道の沿道に位置している。

歴史・文化を感じながら市民や来訪者が憩え、周辺のまちなみと調和した地域の拠点公園としての整備を行った。

【再整備にあたってのおもな基本方針と取り組み】

○公園内に埋もれた中世界の歴史環境を顕在化させ、周辺の歴史文化資源と一体となつて、観光振興等に資する環境づくりを実施した。

・中世の海岸線を階段護岸等により表現し、旧の海側に舟形遊具を配置

・旧紀州街道を表現するとともに、住吉祭礼図屏風のオブジェを設置

○堺環濠都市区域内の歴史文化資源を繋ぐ観光ネットワークの構築に向け、まち歩きの休憩・休息等の場となる環境整備の実施した。

・エントランス部を改修し、スポット広場を設置。また、テーブルベンチ等により休憩・休息環境を提供

○大道筋の緑化と併せ、大道筋側の花修景や公園内への花木を導入し、おもてなしの環境づくりを実施した。

・花修景や四季が感じられる環境づくり



園路(海岸線位置再現)



大型舟形遊具



紀州街道沿道



住吉祭礼図屏風オブジェ

・阪堺線停留場美装化事業

紀州街道の中心を走る阪堺線の停留場について、老朽化等に伴い、美装化を実施した。当計画で紹介している大浜潮湯のデザインを取り入れている。(上下線の停留場 2箇所)

●紀州街道沿道の景観づくり(阪堺線沿道の植栽帯の改善)

紀州街道のうち広幅員となっている大道筋区間(約2.5km)において、阪堺線軌道と車道部の間の植栽帯の改修工事を実施。

平面花壇の配置、ヒラドツツジ等の植栽により、紀州街道沿道の景観形成を図った。



停留場美装化(宿院停留場)



植栽帯の改善

(自己評価)

神輿渡御祭の舞台のひとつである紀州街道沿道に位置し、ザビエル公園の緑化の改善や、新たにデザイン性に配慮した阪堺線宿院町停留場の整備、紀州街道沿道の植栽帯の改善により沿道の景観形成が着実に図られた。

そのほか、ザビエル公園においては神輿渡御祭への関心を高めるために住吉祭礼図屏風のオブジェを設置した。さらには発掘調査で確認した中世の海岸線を園内通路で表現した。

宿院町停留場においては、歴まち計画においても紹介している大浜潮湯のデザインを取り入れるなど、それぞれの事業において工夫を凝らしながら進めてきた。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):大阪大学大学院 助教 松本邦彦

・外部評価実施日:平成29年3月28日

・有識者コメント

各事業は重点区域の特徴を現すシンボリック要素を対象とし、景観形成および歴史的風致に関する情報発信に寄与するものとして高く評価できる。さらに紀州街道は重点区域「環濠都市区域」の背骨となる重要な軸線であることから、沿道におけるこれらの一連の整備は区域全体への波及も期待できる。

(今後の対応方針)

これらの取組みにより、紀州街道沿道における市街地環境の整備も進むなか、今後はこれら施設の適切な維持管理に努めるとともに、歴史文化資源である町家歴史館山口家住宅などの既存ストックや、コミュニティサイクルの活用など、他の事業とも連携し、区域全体への波及効果を図る。

評価対象年度

平成25 年度～ 28 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み:④百舌鳥古墳群整備事業

(取り組み概要)

百舌鳥古墳群整備事業

百舌鳥古墳群の整備基本計画及び保存管理計画を策定し、古墳の整備及び修景、並びに適切な維持管理を行う。

「百舌鳥古墳群保存管理計画」に基づき、古墳の整備及び修景、並びに適切な維持管理を進めた。

平成25年度:ニサンザイ古墳の発掘調査を行った。調査成果は講演会や冊子などで公表し、市民の意識醸成に寄与した。

平成26年度:「百舌鳥古墳群保存管理計画」を策定した。

平成27年度:収塚古墳前方部及び周濠の発掘調査を行い、その調査成果に基づき周辺の公園整備を行った。

平成28年度:寺山南山古墳の整備に向けた発掘調査を行い今後の復元整備に向けての検討に着手した。

御廟表塚古墳の公有地化を実施し、恒久的な保存活用に向けた準備に着手した。



収塚古墳整備写真



寺山南山古墳発掘調査の様子



堺市百舌鳥古墳群保存整備委員会
(平成28年11月28日)



国史跡百舌鳥古墳群保存管理計画および概要版

(自己評価)

百舌鳥古墳群整備事業においては「保存管理計画」を策定した上で、古墳の発掘調査等を実施し、整備及び修景等を進めた。収塚古墳は、発掘調査により古墳の平面形を確認し、その成果に基づき前方部や周濠を明示した公園整備を実施し、古墳周辺の環境改善を図った。今後も寺山南山古墳等において、調査成果に基づいた整備を推進していく予定である。

これらの取組みにより、百舌鳥古墳群において古墳整備や周辺の修景を進め、周遊のための良好な環境を育むとともに、貴重な歴史文化資源に対する市民等の意識醸成を図るなど、百舌鳥古墳群の周遊にみる歴史的風致の維持・向上に資する取組みを進めている。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):大阪大学大学院 助教 松本邦彦

・外部評価実施日:平成29年3月28日

・有識者コメント

整備基本計画および保存管理計画を定め、古墳の保存活用については歴史的風致の維持向上につながる体制を構築していること、また着実に発掘調査や整備を進めていることは評価できる。情報発信の点でも各種取り組みが実施され評価されるものではあるが、古墳そのものの価値だけでなく、歴史的風致の観点から古墳群の周遊などの人々の活動との関わりを発信することも今後検討されたい。

(今後の対応方針)

百舌鳥古墳群の調査研究を継続し、それらの成果を踏まえた修景や復元等の整備を行う。併せて古墳に馴染みが少ない方でも古墳群の魅力や価値を体感できような周遊方法等を検討していく。

評価対象年度	進捗評価 平成28年度 総括評価 平成25年度～平成28年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 堺市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 平成29年3月28日午前10時30分から12時00分まで	
<p>(コメントの概要)</p> <p>○本計画を進めていく上で、観光への波及効果なども視野に進める面はあると思うが、歴史文化資源と、それを支える人々の活動を将来へ継承するという本質を見失わないようにすることが重要である。</p> <p>○良好な景観形成にあたり、屋外広告物の適正化は建築物の更新に比べて非常に即効性がある。そのため、既存不適格広告物の分布状況を把握し、適正化件数の年間目標を設定するなど、戦略的に展開していく必要がある。</p> <p>○歴史的なまちなみの再生に向けては、修景する町家が本来どういう形式のものかなどを確認して修景を進めるべきである。</p> <p>○住民がそのまま町家を継承する時代ではなくなっている。将来どう受け継いでどう活用していくか、住宅としてだけでなく、別の活用方法を模索していけるよう、さらに踏み込んだ取り組みが必要である。</p> <p>○町家の修景について、事業後の写真はいくらでも撮れるが、事業前の写真は2度と取れない。事業を評価するためにも事業前の写真はきちんと撮っておく必要がある。</p> <p>○埋蔵文化財では発掘調査時がいちばん迫力・説得力がある。いかに調査時に公表するかが重要であり、かつ発掘現場をそのまま常時見られるような展示をしてはどうだろうか。</p> <p>○文化財は偽物より学術的本物性が一番魅力をもっている。その辺りの展開論を考えていただきたい。</p> <p>○現場ではバーコード等を読み込むとホームページで発掘時のプロセスの画像が見られるようにすると説得力がある。バーチャル・リアリティと画像を活用して見せることも必要だ。</p> <p>○自転車道のデザインが歴史に全然配慮されていない。周辺の市街地特性に合わせて落ち着いたデザインにするとか、さらには自転車道のサインも合わせて検討するべきである。</p> <p>○3年間の総括、取り組みがワンストップで見れるものが必要である。それと同時に、行政内でそれらの取り組みが周知され連携していくことが重要である。市民への啓発活動に合わせて職員向け研修も行ったほうがよい。</p>	
<p>(今後の対応方針)</p> <p>○協議会での意見を踏まえて、歴史文化資源とそれを支える人々の活動を将来へ継承するという当計画の趣旨に即して、今後も計画を推進していく。</p> <p>○本市の歴史的風致やこれまでの取り組みについて、庁内外問わず、分かりやすく発信していく。</p> <p>○歴史文化資源の保存については、学術的な調査研究等を十分に踏まえた上で、今後とも公開活用を進める。</p>	